

# 常磐高等学校 令和5年度 学校重点目標並びに学校自己評価表

( 計画段階 ・ 実施段階 )

学 校 運 営 計 画				総合評価(3月)		
学校運営方針	知育、徳育、体育の三位一体を基盤として、至誠の心を育み、自由清新な気風で、心豊かな行動力のある社会有為の人材を養成する。			A		
昨年度の成果と課題	本 年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標				
「授業第一」を合言葉に授業評価アンケートを継続し授業改善を行い、ICT教育としてiPadを導入、わかる授業と学習の定着を行った。結果として国公立大学に13名が合格、昨年度より倍増した。生徒会活動が活性化し、生徒主体の学校に大きく変わりつつある。新しいキャリアプランを導入して3年目、コース別など更なる細分化が必要。今後も生徒会活動を中心に校内外でのマナー遵守や自主的な学習活動の定着を目指す。そのためにも教職員の研修によりスキルアップを図るとともに各分掌の横断的で組織的な取り組みの強化と各部・各学年の更なる連携が必要である。	基本的生活習慣を確立し、ICT機器を活用し主体的な学習によって確かな学力を定着させる。	家庭学習を定着させ、「予習・授業・復習(課題)」の学習サイクルを確立させる。				
		質実剛健の校訓を尊重し、規範意識を高め豊かな人間性を育む。	新高等学校学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」を実践する。			
	キャリア教育プランを推進し継続的、組織的な指導により希望進路の実現を図る。		教育活動全般を通して、「耐性・自主性・課題解決能力」を育成する。			
		自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。	「規範意識」を高めると共に相手の立場に立った言動ができる生徒を育成する。			
	大学入学共通テストを視野に授業改革を推進する。					
	生徒個々のデータを集約・蓄積して、「常磐スタイル」の進路指導を確立する。					
学校内外で「自他の尊重」意識して、良好な人間関係の構築に努める。						
互いに「思いやりの心」を持って学校生活が送れるよう全教育活動で人権教育を実践する。						
	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価(3月)		次年度の主な課題	
学習指導	教科指導力の向上	・授業規律を第一に考え「わかる授業」「伸びる授業」のためにシラバスを作成し授業改革を促進する。 ・定期的な授業評価アンケートで授業改善に努め、生徒の「授業満足度」向上を目指す。	A	A	A	シラバスを次年度より本格的に進めていくためにも活用の状況を確認し、予習・授業・復習のサイクルを習慣化するためシラバスを活用できるよう生徒への指導を行っていききたい。授業評価アンケートを利用してよりよい授業改善を行っていきけるよう、教員1人1人が向上心を持って授業準備を行う必要がある。その際に今以上にICTを利用した授業方法を構築していくために、教務でも研修などを行っていききたい。
	学習意欲の向上	・出席率の向上が学習意欲の向上に繋がることを認識させ、各学年「月間出席率」99%以上を目指す。 ・予習・授業・復習の学習サイクルを習慣化するため、家庭学習時間を確保する手立て(宿題・小テスト等)を徹底させる。	B			
生徒指導	規範意識の向上	・教員が率先垂範し、挨拶、返事、礼儀作法、言葉遣いなどの基本的生活習慣の徹底を図る。 ・学校内外でのモラルやマナー指導を行い、社会規範を身につけさせる。	B	B	A	昨年に比べて様々な場面で生徒は落ち着いた学校生活を送ることができるようになってきた。次年度はさらに、登下校時のマナーやモラルなど規範意識の徹底を図りたい。また、生徒会や各種委員会の活動も活発になってきたため、次年度は本年度以上に生徒会の活動を活性化させ、生徒の自治活動を充実していききたい。
	生徒会活動の活性化	・学校生活は自治的な生活の場であると理解させ、生徒会を中心に、生徒自らが自覚のある学校生活の確立を目指す。 ・生徒会や委員会活動を通じ、生徒が互いの理解を深め自発的な行動を取る事ができるよう意識を高める。	A			
進路指導	進路学習の充実	・エナジードやスタディサプリ使用し、進路意識の向上とミスマッチのない進路計画を構築させる。 ・教育活動にICTを積極的に使用し、効率的で戦略的な指導の徹底を図る。	B	A	A	「進路の手引き」の作成、「情報Ⅰ」を考慮したカリキュラム作成に関しての教務との連携、「総合的な探求の時間」の精査といった進路学習環境の整備とコース毎のキャリア教育プランの活用の徹底を図る。その上で担任が生徒の関わりを持つ時間を確保し、今年以上に国公立一般入試での実績の向上を目指す。また、進路指導室活用の新たな取り組みや図書室との連携も強化したい。
	希望進路の実現	・朝課外や土曜講座のプログラムを精査し、進路に繋がる学力の定着と意欲の促進を目指す。 ・模擬試験結果分析会の徹底を図り、受験校に対応した特別編成授業を実施し、国公立大学20名以上の合格を目指す。	A			
その他	人権教育の充実	・「生徒観察チェックリスト」や人権講話を通じて、生徒の人権意識と自己肯定感の向上によるいじめの未然防止に努める。 ・委員会や研修を複数回実施することで、教職員側にも意識の徹底を促し、校内全体に人権第一という雰囲気を醸成する。	B	A	A	【人権】 生徒観察チェックリストや特設授業、講話等の質を高めると共に、生徒だけでなく職員側の更なる人権意識の向上のため、性の多様性等新たな人権課題についての研修実施を提案したい、 【広報】 今年度、OS参加者592名、推薦入試受験生48名であった。HPの早急な更新に好評価を得ていることから、次年度は益々充実させた内容にし、受験者増、入学者増を図っていききたい。
	広報活動の充実	・中学校や私塾との連携を強化し、「オープンスクール参加者」800名を目指す。 ・ホームページの随時更新、学校案内や学校紹介DVDを敷衍させながら、「推薦入試受験生」100名を目指す。	B			
			A			